

報告事項ア 定例会市議会における図書館関連質問について

1 鎌倉市議会2月定例会（令和6年2月6日から3月15日まで）

(1) 予算等審査特別委員会（令和6年3月5日開会）

日本共産党鎌倉市議団 高野洋一議員

高野議員 市史編さんについては、1年前の議会で、市政100周年を目指して編さんをとるという陳情が総務課で採択された。15年後ということになる。この1年は、県内自治体への聞き取り調査、どういうふうに進めていったらいいか関係課とも協議を進めていると聞いているが、令和6年度はどのような姿勢で取り組んでいこうとしているか基本的な考え方をお伺いしたい。

図書館長 中央図書館においては、市史編纂事業をどのように進めていくか検討を行っているところである。近代史資料室には学芸員資格のある職員がおり、補助執行として、市史編纂事業に付随する歴史的公文書の選別事業は総務課とともに行っている。県内各地の状況把握を進めてきたが、引き続き、行政文書を所管する総務課と協議を進めながら取り組んでいく。中央図書館の考え方としては、近代通史編の続編を編集することを考え、また市史編纂委員会の準備委員会をどう組んでいくかという体制づくりを進めていきたい。

高野議員 膨大な歴史的公文書をきちんとやっていく、それをしないと市史につながらない。気になるのは、通常業務をやりながら市史に力を入れていくということであるなら、司書の体制については、増やしてとまでは言わないが、今回2名の採用があったように退職者が出た場合には正規で補充していくということとともに継続的な業務なので体制の強化について求めたい。

図書館長 市史編さんに限って言えば、近代資料室は館長補佐が兼務で担い、併せて研究員、歴史的公文書選別の会計年度任用職員などにより対応しているが、体制の在り方も含めて検討を行っていく必要があるととらえている。また、図書館の本来業務についても、司書資格のある職員が技能やノウハウを伝承していく持続可能な運営の在り方についても検討を重ねていきたいと思う。

高野議員 市史編さんにかかわる話だけではないけれど、業務が増えることになる。力を合わせて、それにふさわしい体制整備をお願いしたい。

令和6年度（2024年度）第4次鎌倉市図書館サービス計画の重点事業内容

目標1 利用者にとって魅力ある図書館

重点事業 市民や鎌倉に関わる人にとって魅力ある蔵書づくり

1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討

(1)現在の蔵書構成及び出版状況を比較分析し、鎌倉市にふさわしい蔵書構築を検討します。

2 資料と利用者のニーズを熟知した職員の育成

(1) 長期的展望に沿った研修計画を策定して、知識やスキルの継承ができるよう職員の育成を図ります。

目標2 誰もが使いやすい図書館

重点事業 図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人ひとりに合わせた資料の提供とその周知

(4) 有料宅配サービスをはじめとする図書館の様々なサービスを周知できるよう広報を強化します。

2 各種電子サービス等デジタル環境の整備

(1) タブレットの貸し出しや Wi-Fi の設置など、館内の ICT 環境の整備方法を検討します。

3 利用者の利便性を高める図書館業務システムの更新

(1) 令和6年度(2024年度)に新図書館機能を視野に入れて図書館業務システムを更新し、利便性の向上を図ります。

目標3 未来につながる図書館

重点事業 利用者のニーズに応じた新しい図書館づくり

1 新深沢図書館の機能の実現に向けた調整

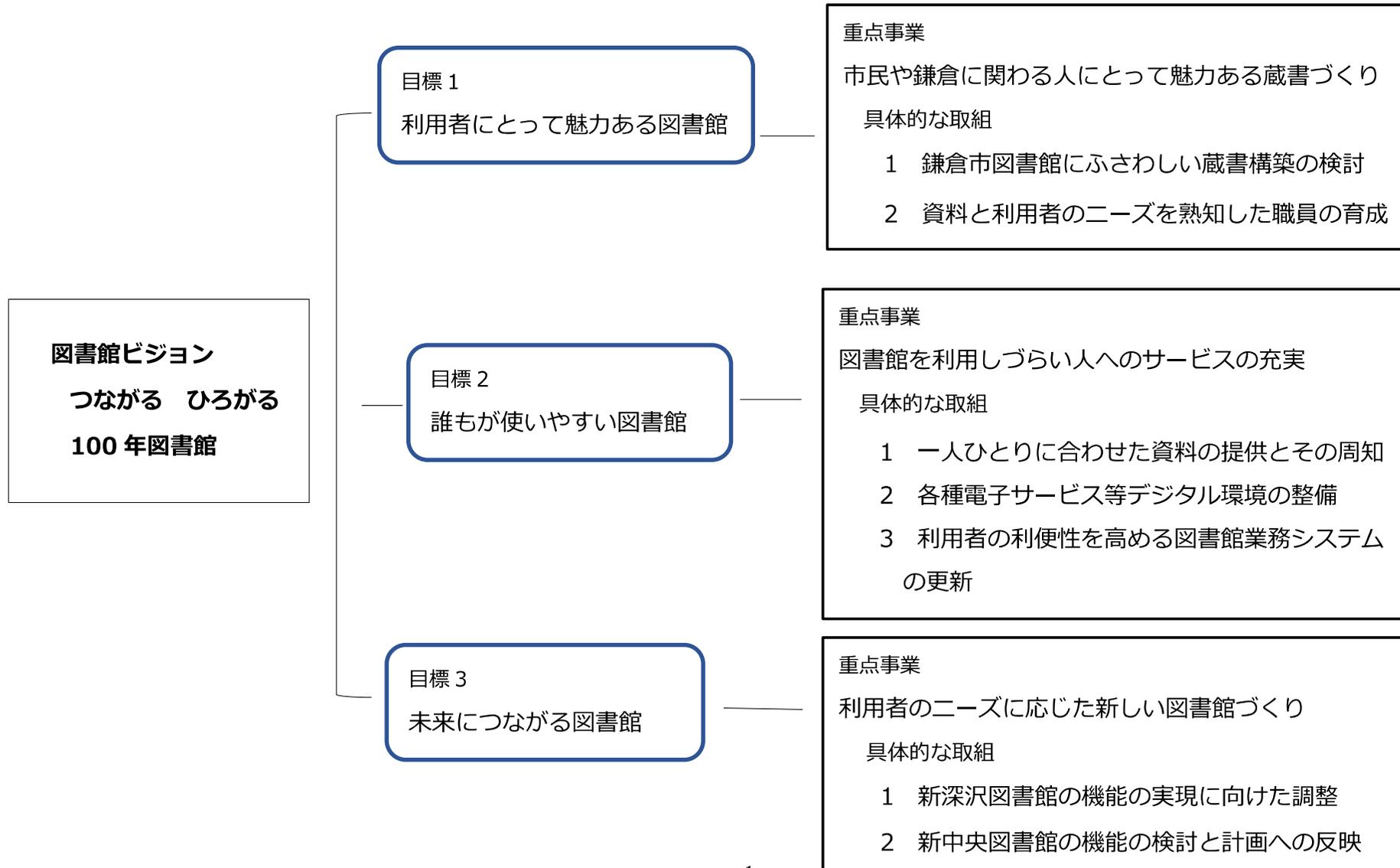
(3) 多様なニーズに応えられる空間の設定（ゾーニング）を検討します。

2 新中央図書館の機能の検討と計画への反映

(3)多様なニーズに応えられる空間の設定（ゾーニング）を検討します。

第4次サービス計画年次評価表

- ・統計は令和5年（2023年）年4月～12月末日時点の数字になります。
- ・表中 A：達成、実施 B：現状維持 C：未達成、未実施 となります。



令和5年度重点事業

目標1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討

取組3 図書館振興基金の活用を図りながら、鎌倉に関する貴重な資料の収集や、それらを補修し、大切に保存、提供していきます。

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
振興基金を利用して収集・補修・保存したもの	明治期以降写真アルバム整理保存デジタル化 31 冊 古絵図鎌倉関係デジタル化 33 点 古絵図鎌倉周辺図デジタル化 31 点 年度内に完成納品予定	原資料の保存環境の整備を行い、デジタル化することで、資料公開提供との両立を図ることができた
		A

令和5年度重点事業

目標 1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

2 資料と利用者のニーズを熟知した職員の育成

取組 2 読書バリアフリー法など社会状況の変化に対応できる職員のスキルの向上に努めます。

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
実施・受講した研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーに関する書面研修を全職員対象に開催した。 ・認知症サポーター養成講座を全職員対象に開催し、職場として認知症に対する理解を深める機会を持った。 ・読書バリアフリーや社会状況の変化に関する外部研修の受講を促し、以下の研修を受講した。 国立国会図書館みなサーチ説明会、多文化対応力向上講座図書館編、図書館総合展フォーラム「UniLeafの活動について」、障害者サービス担当職員向け講座、読書バリアフリーをすすめるために、デジタルインクルージョン政策の動向と公共図書館の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書バリアフリーについての研修を開催し、職員全員に一定の知識を浸透させることができた。 ・担当者を中心に、読書バリアフリーに関する外部研修を積極的に受講し、最新動向や知識を深めることができた。 ・左記の実績以外でも、手話付きおはなし会の充実、外国にルーツのある親子への支援を行うNPO法人との協働によるイベント開催、ものづくり体験の取組みを市民参加型の実験工房とともにするなど、社会状況の変化をとらえた取組みを展開した。 ・今後も引き続き、読書バリアフリーや社会状況の変化に対応できる職員の育成に留意したい。

A

【協議会委員コメント】

- ・自己評価もAとなっているように、読書バリアフリーや認知症サポーター研修などニーズが近年に高まっている事柄の研修を適時実施しており、評価できる内容となっている
- ・認知症サポーター養成講座を全職員が受講されたことは大変良い取り組みだと思う。また、3ページの内容とも連動するが、日本以外のルーツの方へのサポート体制を強めることは、今後継続していただきたい課題である。
- ・図書館として目標に向けての努力との達成感を得られたものと思う。また今後継続の見通しが立っていると感じた。「外国にルーツのある親子への支援を行うNPO法人」や「ものづくり体験の取組みを市民参加型の実験工房」の名称を入れていただきたい。

令和5年度重点事業

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組3 やさしい日本語の利用案内や活字の大きな利用案内を作成します。

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
利用案内の作成状況	情報収集及び検討中	<p>やさしい日本語をどのレベルにしていくか情報収集を行うこととし、統一した掲示を行うよう検討を始めた。 まずは玉縄図書館で先行して掲示している「やさしい図書館案内」の全館掲示に向け動く予定</p> <p style="text-align: right;">B</p>

【協議会委員コメント】

- ・拙速ではなくしっかり検討している方針は大いに評価できる。それ以外にも市内在住の外国人で多い国籍の方の言語による利用案内なども検討していただきたい。（韓国の市立図書館を見学した際には、タイ・ベトナムなど東南アジアの移民のために利用案内が作成されていた。英語や日本語はあまり需要がないので作成はしていないとのこと）利用案内が未作成でも翻訳アプリなどを活用して日本語を母語としない方にもご案内などをしていただきたい。
- ・ここで示されている「やさしい日本語」というものが、具体的にはどのようなことを示しているのかが不明瞭。たとえば用語説明にある「LLブック」の中で示されているような説明や定義があれば理解ができるが、この文章の中だけでは、意味が判然としない。また、この取組の対象者が誰なのかも、よく分からない。子どもなのか、高齢者なのか、障害のある方々なのか、誰を対象とした取組なのかが、分からない。このあたりの記述をより明確な明瞭な内容にする必要があるのではないか。
- ・今後に期待している。

令和5年度重点事業

目標3 未来につながる図書館

【重点事業】 利用者のニーズに応じた新しい図書館づくり

1 新深沢図書館の機能の実現に向けた調整

取組 (3) 多様なニーズにこたえられる空間の設定 (ゾーニング) を検討します。

- (1) 学校との連携、子ども読書活動支援の拠点機能を維持します。
- (2) 市役所と中央図書館及び他の地域館をつなぐ役割を果たします。
- (4) 議会図書室や総務課行政資料コーナーと連携して市民への資料提供に努めます。
- (5) 深沢地域の特色ある資料の収集・保存・活用を継続します。"

評価項目	令和5年度(2023年度)	
	実績	自己評価
どのような調整を行ったか	(市議会未承認のため調整なし)	(市議会未承認のため調整なし)
		B

令和5年度重点事業

目標3 未来につながる図書館

【重点事業】 利用者のニーズに応じた新しい図書館づくり

2 新中央図書館の機能の検討と計画への反映

取組 (3) 多様なニーズにこたえられる空間の設定（ゾーニング）を検討します。

- (1) 鎌倉市図書館全体のネットワークを統括する拠点館としての役割をはたします。
- (2) 鎌倉の歴史と文化を次の世代につなぐ郷土資料の拠点館とします。
- (4) 「鎌倉市にふさわしい博物館基本構想」におけるサテライトとしての図書館資料の更なる充実をはかります。
- (5) 鎌倉市図書館全体の資料保存庫としての役割をはたします

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
どのような調整を行ったか	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンデー「ONE DAY PLAYPARK」参加 ・ 新中央図書館の必要面積検討 ・ 「皆さんのアイデアをお聞かせください」（鎌倉市図書館整備に向けた意見交換会）9月29日／10月8日／10月17日 	<p>主に利用者・市民の新図書館への要望、意向をくみ取ること努めた。子ども・若者のための機能、バリアフリーの機能、その他の機能に分けて様々な意見をいただいた。いただいた意見を担当課とも共有した</p> <p>意見交換会についてはホームページに結果を公開している。</p>

A

【協議会委員コメント】

- ・ 市民の方々の意見や先進的な取り組みをしている公共図書館等を参考にして、引き続き検討をしていただきたい。
- ・ 意見交換会の結果をHPで広く公開していることも市民への情報公開の観点からも非常に望ましい。
- ・ オープンデーに関しては市民全体に周知されていなかったこと（周りに機会があるたびに聞いたが知らなかったという人ばかりだった）図書館ボランティアへのお誘いがなかったことなどが気になった。ただとても盛り上がったと図書館の方も喜んでいたので、地域の大学、鎌倉女子大を図書館の協働事業の始まりとしては意味があったと思う。来年度もこの事業の継続に見通しはあるのか、その点も明記してほしい。（1回で終わりでは打ち上げ花火）
- ・ 意見交換会も実施したことは初めの一歩としてとても素晴らしいと思うが、今後どれだけ深く掘り下げ活用できるかが未知数。
- ・ 自己評価Aは少し甘い。B+くらいか。

目標1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

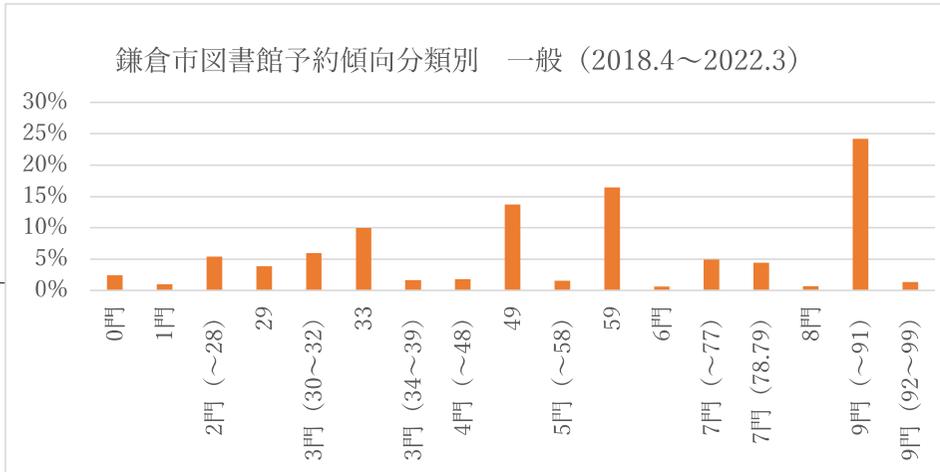
1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討

取組1 現在の蔵書構成及び出版状況を比較分析し、鎌倉市にふさわしい蔵書構築を検討します。

指標項目	平成30年度 (2018年度)	令和5年度(2023年度)		令和7年度 (2025年度)
	現状	実績	自己評価	目標
年間貸出点数	1,326,000	970,393 前年度12月末 1,000,048)	年度末までの数字を見ないと評価は難しいが全体的に数字が低くなりそうではある。期間が短いので比較しての検証は来年度となる。	1,400,000
蔵書回転率	2.4	1.6		2.5
蔵書新鮮度	0.04	0.03		0.04
蔵書更新率	0.09	0.07		0.09
市民1人当たり貸出点数	7.5	5.6		8.1
リクエスト資料の提供数		283,332		

	平成30年度 (2018年度)	令和5年度(2023年度)		令和7年度 (2025年度)
指標項目	現状	実績	自己評価	目標
郷土資料受入数		644	初年度のため、数字を比較しての評価は来年度以降になる。	
資料に対する満足度評点/量 /大人(来館)	3.16			
資料に対する満足度評点/量 /大人(市民)	2.87			
資料に対する満足度評点/量 /子ども(来館)	3.91			
資料に対する満足度評点/量 /子ども(市民)	4.08			
資料に対する満足度評点/種 類/大人(来館)	3.29			
資料に対する満足度評点/種 類/大人(市民)	2.95			
資料に対する満足度評点/種 類/子ども(来館)	3.65			
資料に対する満足度評点/種 類/子ども(市民)	3.33			

		令和5年度(2023年度)																											
評価項目	実績	自己評価																											
出版状況の分析を行ったか	分野別新刊点数構成比を確認	<p>分類別蔵書構成については、県内他館と比べ2門が多め、9門が3割を占め、児童書が少なめ。蔵書構成グラフは逗子と酷似している。リクエスト傾向については9門(日本文学)、59(実用書)、49(医学)、33(経済)の順にリクエストが多い。児童は絵本と読み物がほとんど、やや自然科学が多い。鎌倉市としてはもう少し郷土資料の占める割合が多くてよいかもしれない。</p>  <p>鎌倉(分類別蔵書)</p> <table border="1"> <tr><th>分類</th><th>割合</th></tr> <tr><td>0門(総記)</td><td>2.0%</td></tr> <tr><td>1門(哲学・思...</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>2門(歴史・地...</td><td>9.0%</td></tr> <tr><td>3門(社会科学)</td><td>10.0%</td></tr> <tr><td>4門(自然科学)</td><td>5.0%</td></tr> <tr><td>5門(技術)</td><td>4.0%</td></tr> <tr><td>6門(産業)</td><td>1.0%</td></tr> <tr><td>7門(芸術)</td><td>6.0%</td></tr> <tr><td>8門(語学)</td><td>0.5%</td></tr> <tr><td>9門(文学)</td><td>29.0%</td></tr> <tr><td>児童</td><td>18.0%</td></tr> <tr><td>郷土・行政</td><td>5.0%</td></tr> </table>		分類	割合	0門(総記)	2.0%	1門(哲学・思...	3.0%	2門(歴史・地...	9.0%	3門(社会科学)	10.0%	4門(自然科学)	5.0%	5門(技術)	4.0%	6門(産業)	1.0%	7門(芸術)	6.0%	8門(語学)	0.5%	9門(文学)	29.0%	児童	18.0%	郷土・行政	5.0%
分類	割合																												
0門(総記)	2.0%																												
1門(哲学・思...	3.0%																												
2門(歴史・地...	9.0%																												
3門(社会科学)	10.0%																												
4門(自然科学)	5.0%																												
5門(技術)	4.0%																												
6門(産業)	1.0%																												
7門(芸術)	6.0%																												
8門(語学)	0.5%																												
9門(文学)	29.0%																												
児童	18.0%																												
郷土・行政	5.0%																												
年間出版数をどれだけカバーしているか	未実施																												
現在の蔵書分析を行ったか	実施																												
近隣都市との比較を行ったか	実施																												
リクエスト傾向の分析を行ったか	実施																												
購入資料の傾向分析を行ったか	未実施																												
蔵書回転率の高い分野の分析を行ったか	未実施	<p>A: 4項目 C: 3項目</p>																											



【協議会委員コメント】

- ・資料費の予算が増えないと指標項目の数値は劇的に向上しにくいので、資料費の予算を増やすための努力をしていただきたい。
- ・ここで示されている各指標項目の数値が全体的に低くなりそう、ということだが、その原因・理由については、ある程度検討されているのか。比較検証は来年度となる、とのことですが、すでに推定・想定されている主な原因・理由があれば、それを示すことはできないか。
- ・年間貸出点数が減少しているのは、人口減少と連動したり、読書離れと連動しているのかもしれない。
- ・この項目が一番大事なところ。現状を伝えるのに藤沢市の蔵書構築状況を比較として明記してほしかった。蔵書購入が足りない現状をこの場を借りて訴えてほしい。延べでなく実質市民の貸出利用人数、市外貸出利用人数も参考に入れてほしかった。
- ・若干、未実施の分野もあるが初めての分析業務であるので、拙速な分析ではなく、時間がかかってもしっかり分析をしている点は大いに評価できる。分析だけでなく、今後は分析に基づいた蔵書選択などにも反映して、より市民のニーズに沿う図書館になっていただきたい。電子書籍の導入の際の検討資料にもなると考える。

目標1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】 市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

1 鎌倉市図書館にふさわしい蔵書構築の検討

取組2 議会図書館や総務課行政資料コーナーと連携しながら、行政資料の網羅的収集を実現します。

令和5年度（2023年度）		
指標項目	実績	自己評価
1年間に出版された行政資料の カバー率		<p>全体の母数把握は、各課が単発で発行する資料もあつたり、新型コロナウイルス流行等で発行が年単位で遅れているところもあるため把握が難しかった。 そのため、今後はタイトル数の増加で評価を検討したい。 行政資料の網羅的収集を目指し、各課へ収集への協力を年2回呼びかける予定。</p>
これまでの欠号調査と補完		
評価項目	実績	自己評価
電子資料の保存法検討	<p>資料保存をした際、電子資料を公開している場合は、URL先をリンク先として保存し、利用者の利便性を図った。ただ、リンク先のURLが変わる場合がある。</p>	<p>電子資料でしか公開していない行政資料がある。各課へ行政資料の収集への協力を依頼する際、紙で印刷した資料を納品してほしい旨を呼びかけていく。</p>

B

目標1 利用者にとって魅力ある図書館

【重点事業】市民や鎌倉にかかわる人にとって魅力ある蔵書づくり

2 資料と利用者のニーズを熟知した職員の育成

取組1 長期的展望に沿った研修計画を策定して、知識やスキルの継承ができるよう、職員の育成を図ります。

令和5年度（2023年度）			
指標項目	実績	自己評価	
レファレンス記録件数	99（前年同時期+1）	昨年度とほぼ同等の記録を行うことができた。参考資料の増加点数については初年度のため比較検証できない。	A
レファレンス協同データベース新規登録件数	63（前年同時期+4）		
参考資料増加点数	+187		

令和5年度（2023年度）			
評価項目	実績	自己評価	
研修計画の策定状況	短期的な研修計画は作成中であるが、長期的な計画は検討中。	長期的に図書館のあり方や職員が担う業務の展望を見通せておらず、研修計画も短期的な内容に留まっている。	B

【協議会委員コメント】

- ・レファレンス協同データベース新規登録件数については、他の図書館の登録内容に比べて、詳細な内容が記述されており、質・量ともに素晴らしい内容である。また、新規だけでなく過去に登録した事例も適時内容更新が行われている点も評価できる。こうした登録事例をみればわかるように利用者へのレファレンスもしっかり行われていると思われるので、引き続きしっかり取り組んでいただきたい。
- ・研修計画の策定状況については、勤務年数や職位等に応じて適切な研修の実施をすることが望まれる。司書の役割は幅広くなってきており、研修内容も従来の図書館業務に関連することだけでなく、例えば社会教育士などの関連分野などの知識も得られるような研修なども検討していただきたい。
- ・これからの新図書館整備に向けた他県等の図書館見学などの研修を希望する

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組1 大活字本、朗読CD、デージー図書、LLブック、マルチメディアデージー等の充実と利用促進を図ります。

指標項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
大活字本所蔵点数	+27	大活字本はロービジョンの利用者に活用されている。意識的に購入することができたと思う。大活字本は発行数が少ないため、発行されたらすぐ購入をしていくよう心掛けたい。今年度はデージー図書で読書を楽しむ視覚障害者があり、サピエ図書館を通してデージー図書を借用したり、鎌倉朗読録音奉仕会が音訳したデージー図書を提供したりした。
大活字本貸出点数	1,757	
朗読CD所蔵点数	1,044(不明除く)	
朗読CD貸出点数	2,483	
デージー図書所蔵点数	511	
デージー図書貸出点数	87	
LLブック所蔵点数	+31	
LLブック貸出点数	268	
マルチメディアデージー所蔵点数	17	
マルチメディアデージー貸出点数	0	

A

【協議会委員コメント】

- ・大活字本やLLブックの所蔵増加など一定の取り組みを継続的に行っており、評価できる。LLブックは一般の利用者も利用できるが、こうした誰もが利用できる資料の充実に今後も期待したい。
- ・この重点事業に関する具体的な取組内容とその自己評価を拝見すると、「高齢者」を対象とするサービスが何も示されていないように感じる。鎌倉市の高齢者人口の多さを考えれば、「高齢者」に対するできる限りのサービスの充実と拡充は当然必要な内容である。何らかの計画、対策等についての記述は必要なのではないか。

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組2 多言語資料の収集に努めます。

指標項目	令和5年度（2023年度）		
	実績	自己評価	
所蔵する資料の言語の種類数（日本語以外）	36	重点事業となったことで意識的に多言語資料の収集を行うことができた。貸出点数が伸びているのはPRの効果か所蔵点数が増えたことによるものか今後も注視していく。	
日本語以外の資料の所蔵点数	前年同時期より+95		
日本語以外の資料の貸出点数	前年同時期より+1838		
			A

【協議会委員コメント】

- ・釜山の図書館を訪れた際に、釜山市と交流提携を結んでいる横浜市立図書館とお互いの言語の図書の交換を行っており、横浜市立図書館から送られた図書が書架に並んでいた。鎌倉市と交流提携を結んでいる海外の都市と図書交換をして多言語図書を増やす取り組みもぜひ検討してみしてほしい。
- ・多言語資料については予算の制約もあると思うが、多様な利用者への対応を考える上では必要なことだと思うので、多言語環境が見られる自治体の図書館との連携も視野に入れて取り組んでいただけると良いのではないかと。
- ・どの言語の資料を何冊収集できたのか、具体的な数字を合わせて列記して欲しい。貸出数が伸びているのはどの言語の資料か。貸出利用者の年齢も合わせて知りたい。収集だけでなく、どのように利用促進を図ったのかも補足していただきたい。

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組4 有料宅配サービスを始めとする図書館の様々なサービスを周知できるよう広報を強化します。

		令和5年度(2023年度)	
指標項目	実績	自己評価	
有料宅配サービス利用数	貸出 11人 62点、 返却 11人 52点	<p>新規登録者数が6人増えた。障害者手帳を取得した際に、『福祉の手引き』で知った方、地域館を利用したときに案内があったなどの声がありそれなりにPRの効果が出ていると思われる。</p> <p>障害者サービスのチラシを作成して発行予定。 図書館だよりは年4回の発行を目指していたが、3回にとどまった。</p>	B
図書館だより発行数	No.141・No.142 発行 No.143 発行予定		
ホームページ閲覧数	全体数のみカウント可 1,100,962		
障害者サービス登録者数	81		
どのような広報をおこなったか	『福祉の手引き』掲載 鎌倉市図書館ホームページ掲載 5月 児童福祉週間の展示、9月 認知症啓発展示、12月 障害者週間の展示 障害者サービス登録のちらし発行		

【協議会委員コメント】

・特別な支援やニーズのある方々に対してもしっかり告知やサービスを行っており、評価できる。利用者への資料宅配については、障害者のみならず歩行困難な高齢者にも無料の宅配サービスができると良い

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

1 一人一人に合わせた資料の提供とその周知

取組5 サピエ図書館の周知に努め利用促進を図ります。

		令和5年度（2023年度）	
指標項目	実績	自己評価	
サピエ図書館利用数	114	<p>今年度はデジタライズ図書で読書を楽しむ視覚障害者がいたため、利用数は昨年度に比べて増えた。</p> <p>国立国会図書館の視覚障害者等用データの送信を受けることができる図書館等として申請をし、承認された。登録者への利用呼びかけやホームページ等で掲載することで、本市で所蔵しているデジタライズ図書以外も提供できることを周知していきたい。</p> <p>サピエ図書館登録数については図書館で把握ができないので削除としたい。</p>	A
サピエ図書館登録数	—		
どのような周知を行ったか	<p>図書館ホームページで周知</p> <p>サピエ図書館のチラシの配布</p> <p>市の障害者サービス新規登録者への声掛け</p>		

【協議会委員コメント】

- ・サピエ図書館は他館でもなかなか利用が伸びていないので、利用数が増えていることは非常に評価できる

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

2 各種電子サービス等デジタル環境の整備

取組1 タブレットの貸出やWi-fiの設置など、館内のICT環境の整備方法を検討します。

評価項目	令和5年度(2023年度)		
	実績	自己評価	
ICT環境整備に向けて何を行ったか	令和6年度(2024年度)に各館にwi-fiを導入することを検討し、館内環境の調査、見積もりを取得した。予算に限りがあり、令和6年度予算要求は中央図書館のみにとどまった	長年要望のあったwi-fi導入に向け、具体的な一歩を踏み出すことができた。来年度は中央館のみの導入となるが、導入実績や利用状況、利用者からの反応をみて、地域館にも展開していけるよう努めたい。	A

取組2 鎌倉市にふさわしい博物館基本構想の中でうたわれている将来的な「MLA連携」を視野に入れた「デジタルアーカイブ」の発信と活用を促進します。

評価項目	令和5年度(2023年度)		
	実績	自己評価	
デジタルアーカイブの発信と活用に向けて何を行ったか	所蔵の震災史料デジタル資料について、関東大震災100年を節目に、防災資料としての活用のため、国、県への情報提供を行った。 令和5年(2023年)3月に発行した『古都鎌倉へのまなざし』掲載写真データの活用による各地域での写真展等の開催に資料提供を行った。	コンテンツの活用の幅が広がるよう、今後は資料情報の付与や、利用方法の案内や活用方法の提案の工夫を行いたい。	A

【協議会委員コメント】

- ・中央図書館にwi-fiが整備されたので、引き続き他館での整備に向けて努めていただきたい。特にPCで学習や調べものをする利用やにはwi-fiは必須であるので早急な整備が求められる。また電源コンセント等の整備も検討していただきたい。
- ・画像の解説文や文書であれば書き下し文や現代語訳など、コンテンツとしてさらに理解や興味が深まるような工夫も今後に向けて検討していただきたい。

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

2 各種電子サービス等デジタル環境の整備

取組3 図書館資料のデジタル化と公開を推進します。

指標項目	令和4年度(2022年度)	令和5年度(2023年度)	
	現状	実績	自己評価
デジタル化された資料点数	54,615	2436 (～2023.3.31 予定)	判型の大きい古絵図、アルバムに貼り込んである写真資料等自館でのデジタル化が技術的に難しい資料のデジタル化の外部委託を行った。
デジタル化資料のホームページアップ件数	1,301	デジタル化資料の登録公開84点 (～2023.12.31)	主に錦絵のデジタル化資料の公開に努めた。
ジャパンサーチ閲覧件数	82	108 (～2024.12.31)	関東大震災100年に伴い、震災資料の閲覧が多くみられた。

A

取組4 新聞、百科事典などのデータベースの充実に努めます。

評価項目	令和5年度(2023年度)	
	実績	自己評価
データベース充実に向けて何を行ったか	情報収集を行った。	予算の確保が難しく、令和6年度に向けた予算要求には至らなかった。

B

【協議会委員コメント】

- ・ジャパンサーチとの連携など、他館ではあまり見られない環境整備をしっかりと行っている点は大いに評価できる。(県立図書館等の大規模図書館でもジャパンサーチが未連携のところが多い)
- ・データベースについても、無料で利用できる有用なデータベースのリンク集やパスファインダーのさらなる整備をお願いする。

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

2 各種電子サービス等デジタル環境の整備

取組5 電子書籍導入の検討を行います。

評価項目	令和5年度(2023年度)	
	実績	自己評価
どのような検討を行ったか	<p>7月に電子書籍についての考え方をまとめた。</p> <p>9月、市のシステム審査会に電子書籍導入について、趣旨は了承された(予算の裏付けはなく、補助金を取るなどが必要)。</p> <p>TRC、オーバードライブ(TOHAN)からの情報収集に努めた。</p>	<p>電子書籍については、近年導入する図書館が増えていること(神奈川県内では33市町村中16、約50%が導入)、ブランクエリア対策、バリアフリー対策にもなることから、積極的に導入の検討を進める必要があるが、あくまでも紙資料の補完であり、保存と提供を両立させるためのレプリカ的な役割が主であること、また図書館に来られない方などに向けた付加的なサービスとして活用できると考えた。</p> <p>デジタル田園都市の補助金の獲得ができないか検討を行ったが、満額の内容には当たらず、経常経費のねん出が必要で、来年度導入の予算要求には至らなかった。</p>

B

取組6 図書館ホームページ内で鎌倉に関する情報コンテンツの連携を検討します。

評価項目	令和5年度(2023年度)	
	実績	自己評価
どのような検討を行ったか	<p>鎌倉学(市内5地域それぞれの地域資料)のパスファインダーの改訂に取り組んだ。リンク集の改訂を検討している。</p>	<p>令和5年度はまだ検討段階で、成果を上げられていない。パスファインダーは2月に改訂予定</p>

B

【協議会委員コメント】

- ・導入したが利用が少ない図書館も多いが、アメリカや韓国の公共図書館の現状では電子書籍の提供は当たり前のこととなっており、導入して終わりではなく、

どのように利用者を増やしていくかなど蔵書構成なども含めて検討を引き続きしていただきたい。

・電子書籍の購入に関しては本当に図書館所蔵に値する書籍かを良く判断してほしい。売れる書籍が電子化されているとも聞く。図書館としての購入判断の基準を明記して購入を進めてほしい。

目標2 誰もが使いやすい図書館

【重点事業】図書館を利用しづらい人へのサービスの拡充

3 利用者の利便性を高める図書館業務システムの更新

取組1 令和6年度（2024年度）に新図書館機能を視野に入れて図書館業務システムを更新し、利便性の向上を図ります。

評価項目	令和5年度（2023年度）	
	実績	自己評価
図書館業務システムの更新内容	<p>令和6年度のシステム更新に向けカスタマイズ内容の洗い出し、要件を整理中。</p> <p>検討中の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 館内の検索機を、子どもやパソコンに不慣れな方でも分かりやすいような画面構成も選べるようにする。 スマートフォンにログインすることで貸出カードを表示させ、貸出できるようにする。 延滞日数に応じた新規予約受付の停止を実装する。 督促メールにタイトル等書誌事項を記載する。 	<p>予算が限られているため、現行システムで要望の多い内容について導入が可能か、システムベンダーと調整する必要を進めている。今後要件を詰めていく中で、実現可能なものはできる限り盛り込んでいきたい。</p>

A

【協議会委員コメント】

・利用カードの代わりにスマホのアプリで貸出手続きができる図書館（例：川崎市立図書館）などの事例もあるので、スマホアプリの導入も検討していただきたい。（個人情報をしっかり守ることが大前提の上での話になる）

協議会委員コメント

全体について

- ・図書館職員の方の仕事の全容がわかり、業務が多岐にわたることを改めて実感した。さらなる職員増が望まれる。
- ・一番重要な蔵書構成を C と判断したところに、職員間で鎌倉市図書館の現状のありかたを危惧し、危機感が共有されていると感じた。このことを評価したい。
- ・電子化、多様性への対応、多言語蔵書の収集など、図書館の仕事も昔に比べて多岐にわたっている。鎌倉は歴史的資料に対応する職員の育成も欠かせない。その中で、通常業務の職員の欠員は図書館運営に差し支える大問題。全体のバランスを見て、次年度の専任司書の採用を早急に対応してほしい。
- ・「長期的に図書館のありかたは職員が担う業務の展望を見通せておらず研修計画も短期的な内容にとどまっている」と問題点を自ら明記しているところを評価したい。長期的展望を鑑みて、専門的研修の機会を増やして、司書の力量を上げていただきたい。
- ・多忙な中でも、将来へつなぐ図書館実現へと職員の方々の意欲が伝わってきた。これだけのことを今年達成できたという思いを大事にして、今後魅力的な図書館の実現に向けて今回の評価を活用していただきたい。

用語解説

【LLブック】

「やさしく読みやすい本」という意味のスウェーデン語（Lättläst）の略。文字情報を正確に読めない、読むことが苦手な人のために読みやすく書かれた本。幼児向けという意味ではなく、それぞれの生活年齢に合った内容がやさしく理解できるよう配慮されている。

【サピエ図書館】

日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営を行っている図書館。会員登録することによりホームページから点字データ、デジータデータをパソコンや携帯電話にダウンロードすることができる。また、加盟している図書館が所蔵する資料を、オンラインリクエストなどによって利用できる。

【ジャパンサーチ】

国会図書館がシステムを運営する、我が国の幅広い分野のデジタルアーカイブと連携し多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォーム。

【蔵書回転率】

図書1冊につき、1年間に何回貸出されたかを示す数値。 $\text{年間貸出冊数} \div \text{蔵書冊数}$ 。

【蔵書更新率】

資料の更新が1年間にどの程度されているかを示す数値。 $(\text{受け入れ冊数} + \text{除籍冊数}) \div \text{蔵書冊数}$ 。

【蔵書新鮮度】

1年間に蔵書がどれだけ新しくなっているかを示す数値。 $\text{新規受け入れ冊数} \div \text{蔵書冊数}$ 。

【大活字本】

弱視者（低視力者、高齢者など）にも読みやすいように、大きな活字で版を組みなおされた本のこと。

【デイジー図書／マルチメディアデイジー】

デイジー図書とは、CD-ROMなどに録音した図書のこと。通常の録音図書と違い、大量の情報を蓄積でき、読みたいページへのジャンプ機能がついているなど利便性が高い。

デイジーは専用の機器でしか再生することができないが、一般的な利用ができるようパソコンでの再生に対応したものがマルチメディアデイジーである。

文字・音声・画像を同時に再生でき、文字の大きさや読み上げるスピードの変更なども可能。どちらも印刷された文字を読むことが難しい障害をもつ人などの読書手段として利用される。

【デジタルアーカイブ】

文化資産をデジタル映像で保存蓄積するもの。鎌倉市図書館では近代史資料室の古写真や絵図、古地図等を順次デジタル化し、ホームページ上で公開している。

【やさしい日本語】

日本語を母語としない人など、だれにでもわかりやすく配慮した簡単な日本語。

【レファレンス】

調べごとや探しもののお手伝い。何らかの情報を求めている人に対し、図書館員がその回答や参考となる資料を紹介するなどして、利用者と必要な資料や情報との出会いを助けるサービス。

【レファレンス協同データベース】

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している調べ物のためのデータベース。一般公開事例はだれでも閲覧できる。

2024/5/15作成

鎌倉市図書館 基本統計表 令和5年度(2023年度) 利用統計

		中央	腰越	深沢	大船	玉縄	(WEB)	全館	2022年度	前年度比
開館日		303	305	305	305	305	364	1,523	1,511	12
登録者	①総数	23,045	8,340	9,712	15,027	8,990		65,114	70,997	-5,883
	②うち市内在住者	20,314	7,457	9,178	12,944	8,075		57,968	63,297	-5,329
	①のうち年度内利用	8,476	2,948	3,798	5,612	3,401		24,235	24,492	-257
	②のうち年度内利用	7,678	2,656	3,586	4,957	3,098		21,975	22,308	-333
新規登録者		1,238	392	429	894	365		3,318	3,473	-155
来館者		172,999	103,985	125,497	154,123	99,970		656,574	633,728	22,846
(貸出利用人数)		116,064	57,712	70,575	99,735	60,863		404,949	410,153	-5,204
貸出 (更新含)	図書	323,207	180,173	225,797	293,314	197,551		1,220,042	1,248,119	-28,077
	雑誌	14,110	11,087	9,337	12,083	6,778		53,395	53,307	88
	AV	9,242	3,641	3,027	5,481	3,512		24,903	30,687	-5,784
	貸出合計	346,559	194,901	238,161	310,878	207,841		1,298,340	1,332,113	-33,773
予約受付	窓口	18,549	12,319	9,566	12,798	10,212		63,444	66,681	-3,237
	各館OPAC	8,613	3,298	4,866	4,799	3,850		25,426	26,409	-983
	WEB						298,111	298,111	302,007	-3,896
	スマホ						41,701	41,701	41,816	-115
	予約受付合計	27,162	15,617	14,432	17,597	14,062	339,812	428,682	436,913	-8,231
WEB, OPACリクエスト							22,568	22,568	23,700	-1,132
レファレンス受付		20,706	14,605	13,182	18,280	12,334	(内OPAC 48)	79,107	80,577	-1,470
文献複写枚数		33,745	1,484	3,276	4,170	2,526		45,201	42,557	2,644
相互貸借	借受	4,214	1,459	2,130	3,008	1,982		12,793	12,641	152
	貸出 (女子大・県外中央一 括、県内玉縄一括)	32	0	0	0	6,603		6,635	6,796	-161

【令和4年度(2021年度)との比較 特記事項】

- * 登録者数は、5,899人減(2018年4月1日以降貸出のない利用者1,230名を長期未利用者に移行した。
また、2013年3月31日までに登録し、2013年度以降貸出利用のない利用者13,351名を除籍した。)
- * 長期未利用からの復活があるため、昨年度登録者数+新規登録者-除籍・未利用移行の数とは一致しない。
- * WEB, OPACから利用者が入力したリクエスト件数は2015年導入後初めて前年度減となった。

2024/5/15作成

鎌倉市図書館 基本統計表 令和5年度(2023年度) 蔵書統計

		中央	腰越	深沢	大船	玉縄	学校貸出	近代史	全館	2022年度
購入	図書(一般)	1,779	1,340	1,024	1,272	1,433	11	0	6,859	8,035
	図書(児童)	529	615	663	523	552	226	0	3,108	3,029
	図書(参考)	175	11	27	10	11	0	0	234	238
	図書(郷土)	98	2	1	0	0	0	7	108	162
	図書計	2,581	1,968	1,715	1,805	1,996	237	7	10,309	11,464
	雑誌	1,537	1,032	850	841	710	0	0	4,970	5,163
	AV	3	5	0	3	5	0	0	16	30
	購入計	4,121	3,005	2,565	2,649	2,711	237	7	15,295	16,657
寄贈 その他	図書(一般)	1,972	1,228	1,096	991	1,021	11	0	6,319	5,334
	図書(児童)	550	560	359	444	438	5	0	2,356	1,664
	図書(参考)	25	4	2	1	1	0	0	33	46
	図書(郷土)	395	61	57	9	101	0	1	624	633
	図書計	2,942	1,853	1,514	1,445	1,561	16	1	9,332	7,677
	雑誌	317	162	96	62	105	0	0	742	693
	AV	238	47	43	19	30	0	0	377	230
	寄贈計	3,497	2,062	1,653	1,526	1,696	16	1	10,451	8,600
受入計	図書	5,523	3,821	3,229	3,250	3,557	253	8	19,641	19,141
	雑誌	1,854	1,194	946	903	815	0	0	5,712	5,856
	AV	241	52	43	22	35	0	0	393	260
	受入計	7,618	5,067	4,218	4,175	4,407	253	8	25,746	25,257
除籍	図書	6,782	3,920	2,881	3,909	3,440	44	0	20,976	17,819
	雑誌	1,704	870	780	903	786	0	0	5,043	5,387
	AV	815	38	16	28	39	0	0	936	226
	除籍計	9,301	4,828	3,677	4,840	4,265	44	0	26,955	23,432
蔵書数 (2024.3.31)	図書	267,450	68,741	89,160	61,667	70,103	9,878	668	567,667	568,104
	雑誌	3,293	40,904	2,035	1,681	1,537	0	0	49,450	48,786
	AV	13,720	1,303	1,118	1,697	1,296	0	0	19,134	19,569
	和漢籍	124	0	0	0	0	0	3,661	3,785	3,924
	蔵書計	284,587	110,948	92,313	65,045	72,936	9,878	4,329	640,036	640,383
蔵書数 (2023.3.31)	図書	266,582	69,087	89,507	62,442	70,236	9,646	604	568,104	
	雑誌	3,359	40,255	1,915	1,704	1,553	0	0	48,786	
	AV	14,285	1,186	1,091	1,705	1,302	0	0	19,569	
	和漢籍	118	0	0	0	0	0	3,806	3,924	
	蔵書計	284,344	110,528	92,513	65,851	73,091	9,646	4,410	640,383	
年度増減	図書	868	-346	-347	-775	-133	232	64	-437	1,580
	雑誌	-66	649	120	-23	-16	0	0	664	538
	AV	-565	117	27	-8	-6	0	0	-435	56
	和漢籍	6	0	0	0	0	0	-145	-139	1
	蔵書計	243	420	-200	-806	-155	232	-81	-347	2,175

令和5年度(2023年度) 雑誌・新聞タイトル数実績

全館計で比較

	中央	腰越	深沢	大船	玉縄	全館計	純タイトル数	2022年度	前年度比
雑誌数(うち購入)	172(135)	85(71)	73(67)	74(65)	76(66)	479(403)	309(267)	467(394)	+12(+9)
新聞数(うち購入)	44(13)	24(9)	25(10)	25(9)	26(9)	145(50)	55(20)	145(50)	±0(±0)

図書館の施設整備にかかる協議の進め方について

鎌倉市では、令和4年9月に「鎌倉市新庁舎等整備基本計画」を、また令和6年3月には「鎌倉市市庁舎現地利活用基本計画」を策定しました。

市庁舎の移転につきましては、令和4年12月の市議会で市役所の位置を定める条例を改正する条例が否決されたこともあり、令和5年度は主に市庁舎現地利活用の検討を中心に内部で協議を行ってきたところですが、令和6年度においては新庁舎の基本設計など具体的な取り組みが進められる予定となっています。図書館としましても、そのような流れに遅れることなく、来るべき日に備え施設整備について検討を重ねる必要がありますことから、図書館協議会において協議をお願いするものです。

協議の進め方

施設整備において協議が必要な項目は数多くありますが、特に重要なポイントについて、順番に協議を行っていきたいと考えています。

1 読書バリアフリーに対応する設備

障害のある人もない人も共に心地よく図書館を利用できるようにするための機能や設備。

2 新図書館に求める機能

基本計画には描き切れていない新図書館に必要とされる機能。

3 地域館の在り方

公共施設再編計画では、地域拠点校ができる際には複合施設の一部として図書館機能も入ることとされている。しかしながらその時期は未定であり、当面は現在の地域館の体制が続くと推察される。常に未来につながる図書館を検討していく中では、地域館における基本的な機能に加え、地域との連携やそれぞれの役割、それぞれの地域館ならではの特色といったものを描き実現していく必要がある。

4 運営体制

常に未来を見据え、持続可能な図書館運営について考える必要がある。

5 電子書籍

外出が困難でも在宅で利用できる図書館、子ども読書の推進の観点からの学校との連携など、メリット、デメリットについて考える必要がある。

6 蔵書数

利用者ニーズにこたえるための目標値。電子書籍が導入された場合でも、基本的な資料は残す必要があると考えた場合の蔵書数と保管場所。

令和5年(2023年)7月
中央図書館

公共図書館における電子書籍の未来と可能性について

- 1 電子書籍とはなにか。
- 2 電子書籍のメリット
- 3 電子書籍のデメリット
- 4 電子書籍のランニングコスト
- 5 紙の書籍と電子書籍は、なぜ両方いるのか。
- 6 電子書籍を導入すると紙資料が減らせるのか。
- 7 近隣市の状況、さらに先に進んだ電子書籍と学校との連携について
- 8 先進事例。利用者が端末操作で閉架書庫の本を自分で受け取れるようなシステムは存在しないのか。
- 9 結論 10年先を見据えた図書館運営。電子書籍はどう展開するか。

1 電子書籍とはなにか。

電子書籍とは書籍の内容を電子データ化し、それを機器の画面に表示して読む、紙を使用しない本や雑誌のことを言う。一般的には、インターネットで書籍の電子データを利用する権利を購入し、パソコンやスマホ、タブレット、もしくは専用読書端末で読むものを指す。音声や動画による表現もでき、紙の本とは別の使いかた、可能性を持っている。

鎌倉市の図書館では、平成22年度(2010年度)に電子図書館の実証実験を行ったが、当時はまだ操作性に課題があり、コンテンツの数も多くなかったことから導入に至っていない。

2 電子書籍のメリット

- ・図書館に行かなくても本が読める。夜間、閉館日でも自分の端末から借りられる。
- ・貸出、返却、予約業務の自動化により、職員の負担を減らし、他の業務に注力できる。
- ・音声読み上げや文字拡大機能等、読書バリアフリーに対応ができる。
 - 1 音訳図書の多くは日本語で読まれているため、音声読み上げできる外国語の電子図書を視覚障害者等向けへ提供できる。
 - 2 朗読CDは障害に関わらず利用できるが、落語や時代小説や名作などの分野が多い。音声読み上げ機能付き図書を提供できれば、幅広いジャンルの資料提供ができる。
 - 3 機械によるテキストの自動読み上げは誤読が生じる可能性があるが、電子書籍の利用が始まれば、そのプラットフォームを活用し、誤読がないオーディオブックの提供も開始できる。
 - 4 今後、調査・検討をする必要はあるが、市の計画の点字データを利用者が自宅からダウンロードできるようにする仕組みづくりも考えられる。
- ・本や資料の汚破損、紛失が防げる。
- ・本の貸出において、延滞がなくなる。
- ・教科書は音声教科書((公財)日本障害者リハビリテーション協会によるマルチメディアデイジーなど)の提供があるが、社会科学習「かまくら」や「わたしたちの鎌倉」「かまくらこども風土記」など音声化されていないものでも、他部署と協力して電子化し、視覚障害者等への提供していくことも考えられる。

3 電子書籍のデメリット

- ・契約内容により、提供できる期間や貸出回数、同時に何点貸出できるかなど扱いが限定される。貸出し制限のないものも用意されているが、内容が限定されていたり、費用がかかる場合がある。
- ・契約により読む権利を取得するだけなので、契約が終われば手元には何も残らない。
- ・過去に事例があったが、業者がサービスから撤退すれば、その時点で終了となる。

- ・資料として残すことができないので、保存継承ができない。
- ・電子書籍の出版には偏りがあり、現在、図書館にある本がすべて電子で読めるようになるわけではない。電子を導入してもなくなるリスクを考えると、紙での購入も継続し、蔵書は減らない。ただし、複本分を電子書籍で置き換える等、増加数がある程度鈍化する可能性はある。
- ・提供されているコンテンツが少なく、新刊やベストセラーはない。
- ・提供側の条件や仕様により、コピーやダウンロードができないものがある。
- ・紙書籍より2～3倍ほど、値段が高く設定されているため、現在の提供数を維持しようとするコストもかかる。
- ・パソコンやタブレットなど機器がないと利用できない。対応としては図書館での機器の提供などが考えられる。
- ・電子書籍＝視覚障害者等が使いやすいとは限らない。アクセシブルな形式（EPUB3形式）での提供が望む事例報告がある。
- ・機械による自動読み上げでは誤読が生じることがある。
(例：東野圭吾 ○ひがしのけいご、×とうのけいご)

4 電子書籍のランニングコスト

電子書籍をはじめた場合、初期のコストだけでなく、使い続ける限り、継続的に費用が発生する。利用の実態とコストを照らし合わせ、導入したものの撤退した自治体もある。

調査機関：電流協電子図書館・コンテンツ教育利用部会

協力：日本図書館協会・国立国会図書館

調査期間：2021.6～8月

調査対象：全国の公共図書館の中央館及び公共図書館はないが電子図書館を導入している10自治体のうち、メールおよびWEBで送付可能な998館

回答率：55.5%

電子書籍サービス導入予算

200万円未満	12.2%
200万円～500万円未満	22.2%
500万円～1000万円未満	31.1%
1000万円～2000万円未満	18.9%
2000万円以上	7.8%
その他	10.0%

「電子書籍貸出サービスの運営費と電子書籍コンテンツ」費用の合計

100万円未満	7.5%
100万～500万円未満	60.3%
500万～1000万円未満	14.4%
1000万～2000万円未満	6.2%
2000万円以上	1.4%
その他	14.4%

「電子書籍サービス、電子書籍コンテンツ」の年間費用

50万円未満	8.2%
50万円以上～100万円未満	13.7%
100万円以上～300万円未満	30.8%
300万円～500万円未満	19.9%
500万円以上～1000万円未満	9.6%
1000万円以上	6.8%
その他	9.6%

- ・電子書籍の料金では、ライセンス（権利）、すなわち、データを「利用する権利」を購入しているのであって、電子書籍を自己所有できるというものではない。

a 「ワンコピー・ワンユーザー型」

- ・電子書籍1冊分につき一人のみ利用
- ・誰かが借りている時は、「貸出中」で借りられない
- ・価格は紙書籍価格の約2～3倍
- ・2年間、または、貸出回数52回までのライセンス有効期限付き

b 「ワンコピー・マルチユーザー型」

- ・電子書籍1冊分につき複数人が利用が可能
- ・ライセンス上限数までは同時に借りられる状態になる
- ・出版社と交渉のうえ、提供価格が提示される

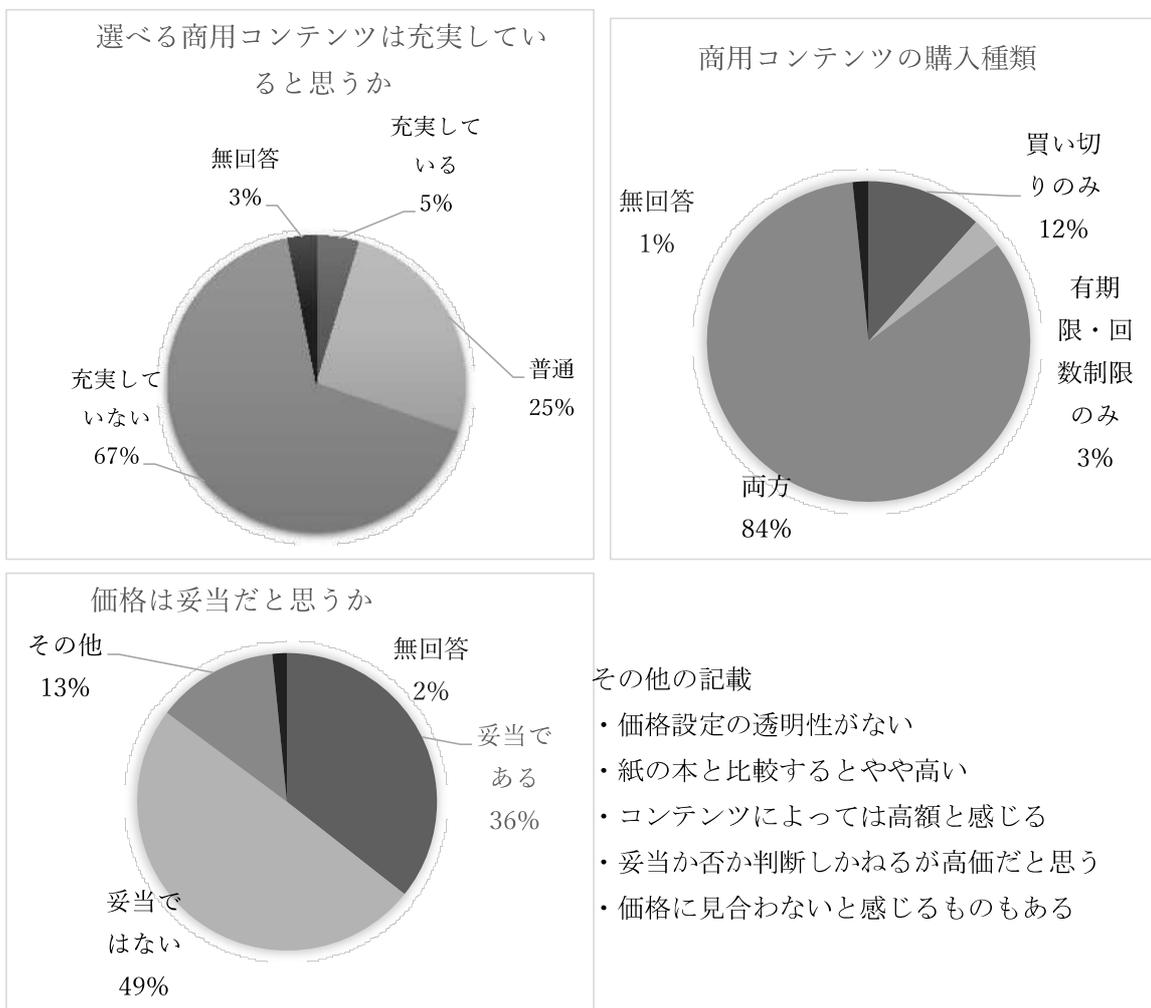
ex. TRC-DL（コンテンツ別価格内訳）

	平均価格	平均ライセンス数
総記	¥22,443	2
哲学	¥4,046	2
歴史	¥5,206	1
社会科学	¥9,967	2
自然科学	¥16,468	2
技術	¥17,959	3
産業	¥7,753	2
芸術	¥7,495	2
言語	¥12,792	2
文学	¥4,486	1
児童図書	¥4,973	2
絵本・紙芝居	¥4,532	2
外国語図書	¥23,420	1
資格本	¥19,894	2
コミック	¥1,110	1
雑誌	¥30,978	1
音声・動画	¥21,387	2

電子書籍（コンテンツ）費用の予算費目	
資料費	26.7%
使用役務	38.4%
業務委託料	12.3%
その他	29.5%

その他の記載内容

- ・ 指定管理料
- ・ 紙の図書資料費とは別に電子書籍購入の予算を計上する必要がある（消耗品扱い）
- ・ 資料費＞その他資料費＞デジタルコンテンツ費
- ・ 需用費（書誌データ・有期限ライセンス）
- ・ 備品購入費（永久ライセンス）”
- ・ 電子図書館システム使用料
- ・ 消耗品費



5 紙の書籍と電子書籍は、なぜ両方いるのか。

「2 電子書籍のメリット」であげたように、利用者の利便性の向上という視点で捉えれば、図書館に行かなくても借りることが可能で、しかもいつでも手続きができること、また、音声読み上げや文字拡大機能等、バリアフリー対応ができることで、本を利用できる方が広がると考えられる。

利用者の反応（『公立図書館における電子図書館サービスの現状』吉井潤／樹村房／2022 より）にはこのようなものがある。

プラスの意見

- +24 時間来館不要で借りられて便利
- +隙間時間に読書ができて良い
- +子どもに動く絵本等を見せると喜んでいました
- +旅行ガイドが便利
- +返却が自動的に行われるので便利

+家ですぐ読めるので良い

マイナスの意見

- 読みたい本がない、人気作家の本がない
- 図書館にある本がすべて電子で読めるようになるのかと思ったら違った。
- 古いものが多い
- サイトにアクセスできない。見られるはずのコンテンツが見られない
- 使いにくい
- 目が見つかるので電子書籍はあまり見たくない
- スマホだと使いにくい
- 今どのあたりを読んでいるのか全体のなかでの現時点がつかみにくい。

このように、すべての資料が電子化されていないこと、特に利用者から要望が多い新刊について電子化が進んでおらず、「知識の市民への提供」の面から、紙の書籍の購入が継続していくことが見込まれる。また、契約が切れた後、資料が手元に残らないため、貴重な資料が保存されず「知の収集（蓄積）」の面で紙の書籍の購入が必要である。紙の書籍は、郷土にとって必要な書籍、ある分野では良書な資料でも品切れで買えなくなる可能性があり、電子書籍だけでなく、紙の書籍の購入を継続していく必要がある。

また、すべての市民がインターネットのある環境であるとは言えない。鎌倉市民の知の基盤を支える「ふみくら」であるという観点から、タブレット等の貸出を検討するとともに、紙の書籍の購入は継続していく必要がある。

参考資料

- ・『公立図書館における電子図書館サービスの現状』吉井潤 樹村房 2022
- ・『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2021』
植村八潮ほか 電子出版製作・流通協議会 2021
- ・ミニ調査 「電子図書館サービスの導入状況について」川崎市図書館 2022
- ・「電子書籍と紙の本」小椋あゆみ（神戸市立図書館報 令和4年8月 No. 333）
- ・各図書館ホームページ 統計資料

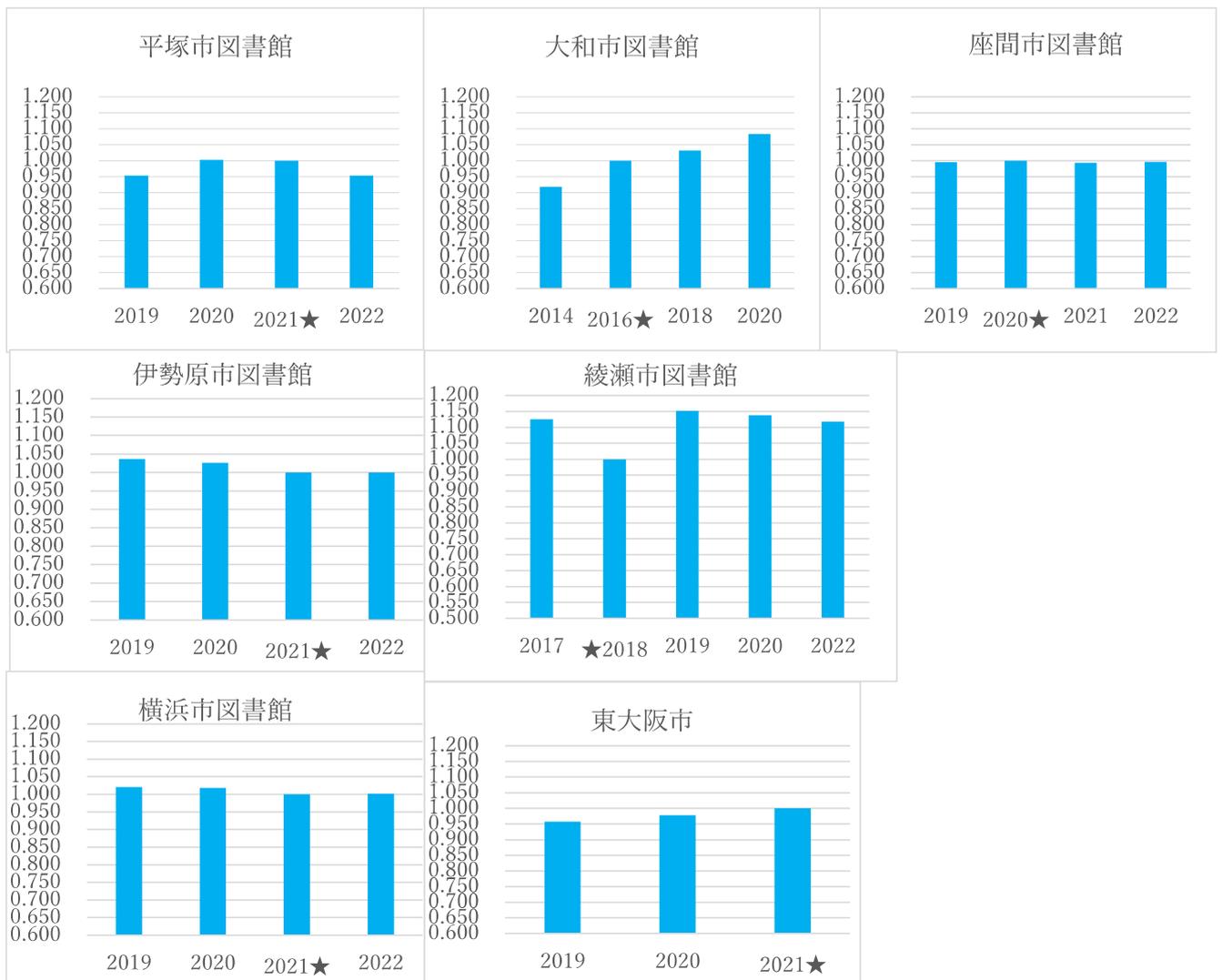
6 電子書籍を導入すると紙資料が減らせるのか。

電子書籍は利用者の利便性の向上に寄与する一方で、資料を保管し未来につないでいく役割としては、永続性がないため、図書館資料の補完はできても代替にはならず、電子書籍の導入により、紙資料を大幅に減らすということは難しいと考える。実際に電子書籍を導入した先進自治体の資料数については下記のとおりで、電子書籍の需要は大きく伸びているが、紙の資料の削減とはつながっていない。

(1) 電子書籍貸出点数推移

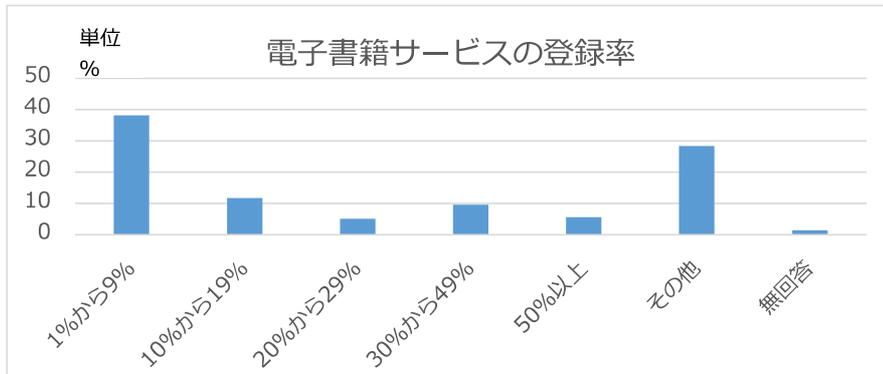


(2) 電子書籍を入れて資料数の推移はあったか

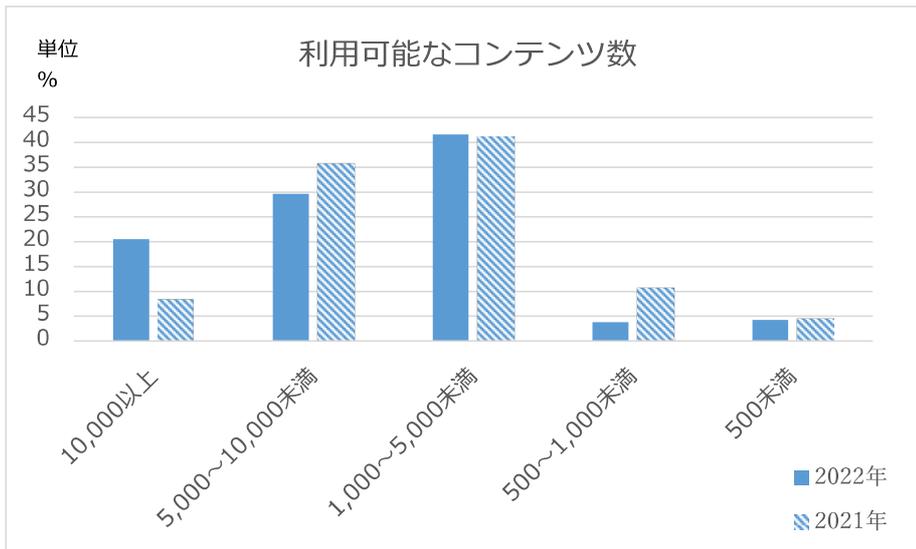


★が電子書籍を入れた年。電子書籍導入年の資料点数を1としたときの資料数の推移。

(3) 電子書籍サービス利用登録率と利用可能コンテンツ数



「その他」：利用登録不要なので不明、
利用カードを持っている人は全員利用できるのでは不明



※平均 6,991 タイトル

7 近隣市の状況、さらに先に進んだ電子書籍と学校との連携について

(1) 神奈川の状況 (2022.6現在)

自治体名	図書館システム		サービス業者名	導入年月	貸出点数	貸出日数	初期導入費	使用料	コンテンツ購入費
	連携	非連携							
横浜市		○	TRC	2021.3～	2	14	770,000		11,058,000
平塚市		○	TRC	2021.7～	3	14	770,000+ 91,000(図書館システムデータ抽出費)	1,320,000/年	1,496,000
厚木市		○	TRC	2021.10～	2	14	779,000	55,000/月	5,940,000
大和市		○	TRC	2016.11～	3	14	回答なし		
伊勢原市		○	TRC	2021.10～	3	14	回答なし		
座間市	○		TRC	2020.9～	2	14	8,413,000	88,000/月	2,297,000
綾瀬市		○	メディアドゥ	2018.4～	3	14	3,410,000	410000/年	3,000,000
大磯町		○	TRC	2022.1～	3	14	770,000	55,000/月	4,026,000
山北町		○	TRC	2020.11～	3	14	700,000	55,000/月	3,850,000
神奈川県立		○	紀伊國屋	2022.6～	貸出ししない (閲覧のみ)		327,000		3,673,000
松田町		○	メディアドゥ	2020.11～ 2023.3	サービス終了				

※ これまでに1自治体が電子図書館システムを終了。理由は価格の高さとコンテンツの少なさ

※連携 図書館システムと連携しているので同時に蔵書検索ができる。別にログインする必要もないし、予約が用意できたときにシステム経由でメール通知できる。

非連携 電子書籍のサイトを立ち上げ電子書籍のみのサービスを行う。低コストで運用できるが、利用者に認証用のIDとパスワードを発行する手間がかかる

※その他 横須賀市はコンセプト等を検討している。逗子市は今後ニーズ調査を実施し、導入を前提に調整を進める。

上記の調査後の各市の動向については次のとおり

横浜市 令和6年1月から新システムを稼働予定。WEB本棚もあり。

川崎市 令和5年3月21日から電子書籍サービススタート。令和5年度は学校での利用

も想定した読み放題パックの導入や本格実施に向けてアンケートを実施予定。

横須賀市 令和5年から、中央、北、南図書館にセルフ貸出機、自動返却機、予約棚、セキュリティゲートを設置。全館カウンター端末にリーダーライタを設置。電子書籍は令和6年に向け、研究。

藤沢市 令和4年電子図書サービスをスタート。令和5年9月から電子図書サービスの学校連携を開始。

小田原市 電子書籍貸し出しサービスの市内小中学校全児童生徒への拡大(9月)

厚木市 令和9年市役所庁舎と複合のため実施設計

南足柄市 令和6年度から電子Libraryの導入を検討

(2) 電子書籍と学校との連携について

川崎市、小田原市、藤沢市など、すでに電子書籍を導入した自治体においては、次の取組みとして、学校での利用も想定した読み放題パックの導入など、学校との連携、タブレット端末をもつ子どもたちへのサービスの検討をスタートさせている。このように状況を踏まえ、電子書籍の導入と併せて、最初から学校連携して、児童書読み放題から始めてはどうかということを提言したい。

特に児童書は寿命が短く、買い替えも多い。また夏休みの宿題や調べ学習、修学旅行の事前学習など、大量に同じテーマの本が必要になる。

例えばポプラ社の「児童書読み放題」を契約し学校と連携すれば、子どもたちが本をたくさん読めるだけでなく、教育委員会として子どもの読書環境支援の体制を整えていることのアピールにもなり、図書館の学校貸出業務の負担の軽減も図れる。不登校の子どもも、一人一台タブレットがある今は家にいながらにして好きなだけ読書が楽しめる。

Ex. 八王子市電子書籍サービス 児童書読み放題

<https://web.d-library.jp/hachioji/g0101/top/>

「同時アクセス数(利用者数)や貸出冊数に制限のない、児童・生徒向けの電子書籍読み放題サービスがご利用いただけます。同じ本を複数人で一斉に読むことが可能であるほか、予約待ちもありません。学校の授業やグループでの読書など、様々な場面でご活用ください」

ポプラ社 電子書籍読み放題サービス Y o m o k k a

<https://kodomottolab.poplar.co.jp/mottosokka/yomokka/>

- 8 先進事例。利用者が端末操作で閉架書庫の本を自分で受け取れるようなシステムは存在しないのか。

カウンターを経由する自動（化）書庫ならある。図書館のコンピュータ検索システムと連動した自動出納システムなので、目的の図書を3～10分で利用者に提供でき、利用者サービス向上及び省力効果が得られる。図書が出納ステーションに直接出てくるため、書庫内での作業が一切無くなり、出納業務とカウンター業務の兼務が可能となる。

主なメーカー：日本ファイリング（オートライブ）、金剛（ブックロボ）、岡村製作所（メディアランナー）、ダイフクなど。公共図書館は日本ファイリングが8割を占める。

日本ファイリングシステム（オートライブ）導入図書館

図書館名	導入時期	収容冊数	スタッカークレーン	出納場所
大分市民図書館	H25	32万冊	3台	2カ所
福知山市立図書館 中央館	H26	20万冊	2台	2カ所
おおぶ文化交流の杜図書館	H26	23万冊	2台	2カ所
土浦市立図書館	H29	32万冊	2台	3カ所
昭島市民図書館	R2	20万冊	1台	2カ所
板橋区立中央図書館	R3	24万冊	3台	4カ所

・デメリット

利用者にとっては、閉架になってしまうと、開架書架のように歩き回って、小説などをなげなく手に取って、これはという本に出会うといったことができなくなる。

また、職員の場合も閉架書庫が機械化されると、書庫に本が棚に並んでおらず、ボックスに入れられ管理されるので、本を選んで出してこなければ見ることができなくなる。利用者の調べもの、タイトルなどの検索で展開することになり、その隣の本を手に取り、内容が調べられるため、資料名での検索となる傾向が強くなり、職員が資料を手に取り、内容を調べて、利用者へ提供することができにくくなる。

導入コストだけでなく管理コストもかかる。

システムトラブルや停電時は一切機能しない。

一般書庫、集密書庫に比べ高額になる。

コンテナのサイズに限りがあるため、大型本の入庫は難しい。

書籍が行方不明になったとき、書庫を探索できず、見つからない。

本を移動させるための装置を設置するには、レールなど多くの面積を要する。また、老朽化した場合、大きな費用負担が発生する見込みがある。

※参考 東京大学図書館（300万冊）自動化書庫導入費用 約10億円
 出庫量とコストの関係（1日あたり10時間運用したとして）

1日あたり	1時間	1か月	1年(300日)	年間保守料金 1,000円	年間保守料金 300万円
1冊	0.1回	25冊	300冊	3000円	10,000円
10冊	1回	250冊	3,000冊	300円	1,000円
100冊	10回(5分毎)	2500冊	30,000冊	30円	100円
300冊	30回(1-2分毎)	7,500冊	90,000冊	10円	30円
500冊	50回(1分毎)	12,500冊	150,000冊	6円	20円

「図書館員のための自動化書庫導入検討項目」黒澤公人 より

（「現代の図書館」Vol.46 No.4 2008年）

9 結論 10年先を見据えた図書館運営。電子書籍はどう展開するか。

深沢に新市庁舎が開庁し、深沢図書館が複合化されて入る予定である。深沢新図書館の予定床面積は530㎡であり、共用部分を含めても、現在より縮小する。

また、現庁舎跡地に新中央図書館が入る予定であるが、こちらについては、現在の中央図書館より広い面積が確保できることを踏まえて考える。

(1) 電子書籍について

電子書籍については、近年導入する図書館が増えていること（神奈川県内では33市町村中16、約50%が導入）、ブランクエリア対策、バリアフリー対策にもなることから、積極的に導入の検討を進める必要がある。

一時期だけ利用が多く、一定期間ののち、内容が時代にそぐわなくなり除籍対象となる一部の雑誌や旅行ガイドブック、直近の経済や社会動向に対処するビジネス書、摩耗等による消耗が早いCD等の音楽資料等は電子書籍として揃えることが利点となる。また、一部の辞書事典や新聞はデータベース等の電子書籍にすることで検索性に優れ利用しやすい点があげられる。

利便性に目を向ければ、近隣市では、学校との連携といった次のステップに入っているところもあり、早期の検討が必要な状況であるともいえる。

ただ、電子書籍のコンテンツはまだ十分ではないこと、かつ高価であること、さらに利用回数や期限が限られており、資料を長期保存し、後世に継承できないことなどから、紙書籍の収集、保存の必要性に継続するものとする。国会図書館でも電子情

報の長期保存は困難であると考えており、現在も保存方法については研究中であるなど、国レベルにおいても方向性は定まっていない。

電子情報、デジタルデータの長期保存を阻む要素としては、「再生に特定の再生機器やソフトウェアが必要であること」「情報の改ざんや複製が容易でありオリジナルのまま保存するのが難しいこと」「記録媒体の保存寿命は10年から長くても100年程度であること」があげられる。

以上の考察から、電子書籍はあくまでも紙資料の補完であり、保存と提供を両立させるためのレプリカ的な役割が主である、また図書館に來られない方などに向けた付加的なサービスとして活用できると考える。

なお、電子図書館サービスを開始するにあたり、事前に考えておくべきこととしては次のことがある。

- ・蔵書数
- ・利用対象範囲
- ・利用方法
- ・電子図書館プラットフォームの選択
- ・蔵書管理システムと連携させるか
- ・電子書籍の収集形態は(ライセンス型か買い切り型か)
- ・貸出型か閲覧型か
- ・読書バリアフリー法に基づく対応
- ・スケジュール
- ・電子資料の資料収集方針
- ・選書基準(限られた予算内での効率的な選書)
- ・除籍基準
- ・予約や購入リクエストへの対応方針

神奈川県内の電子書籍の導入状況について（公共図書館） 2024年4月現在

	自治体名	サービス業者名	導入年月	貸出点数	貸出日数	初期導入費	使用料	コンテンツ購入費
1	横浜市	TRC	2021.3～	2	14	770,000		11,058,000
2	平塚市	TRC	2021.7～	3	14	770,000+91,000(図書館システムデータ抽出費)	1,320,000/年	1,496,000
3	厚木市	TRC	2021.10～	2	14	779,000	55,000/月	5,940,000
4	大和市	TRC	2016.11～	3	14	回答なし		
5	伊勢原市	TRC	2021.10～	3	14	回答なし		
6	座間市	TRC	2020.9～	2	14	8,413,000	88,000/月	2,297,000
7	綾瀬市	メディアドゥ	2018.4～	3	14	3,410,000	410000/年	3,000,000
8	大磯町	TRC	2022.1～	3	14	770,000	55,000/月	4,026,000
9	山北町	TRC	2020.11～	3	14	700,000	55,000/月	3,850,000
10	神奈川県	紀伊國屋	2022.6～	貸出しない(閲覧のみ)		327,000		3,673,000
11	松田町	メディアドゥ	2020.11～2023.3	サービス終了				
12	川崎市	TRC	2023.3～	未確認				
13	相模原市	TRC	2022.9～	未確認				
14	藤沢市	TRC	2022.10～	未確認				
15	秦野市	TRC	2022.10～	未確認				
16	海老名市	TRC	2022.8～	未確認				
17	小田原市	TRC	2022.10～	未確認				
18	愛川町	TRC	2023.3～	未確認				
19	横須賀市	令和6年度中に導入予定						